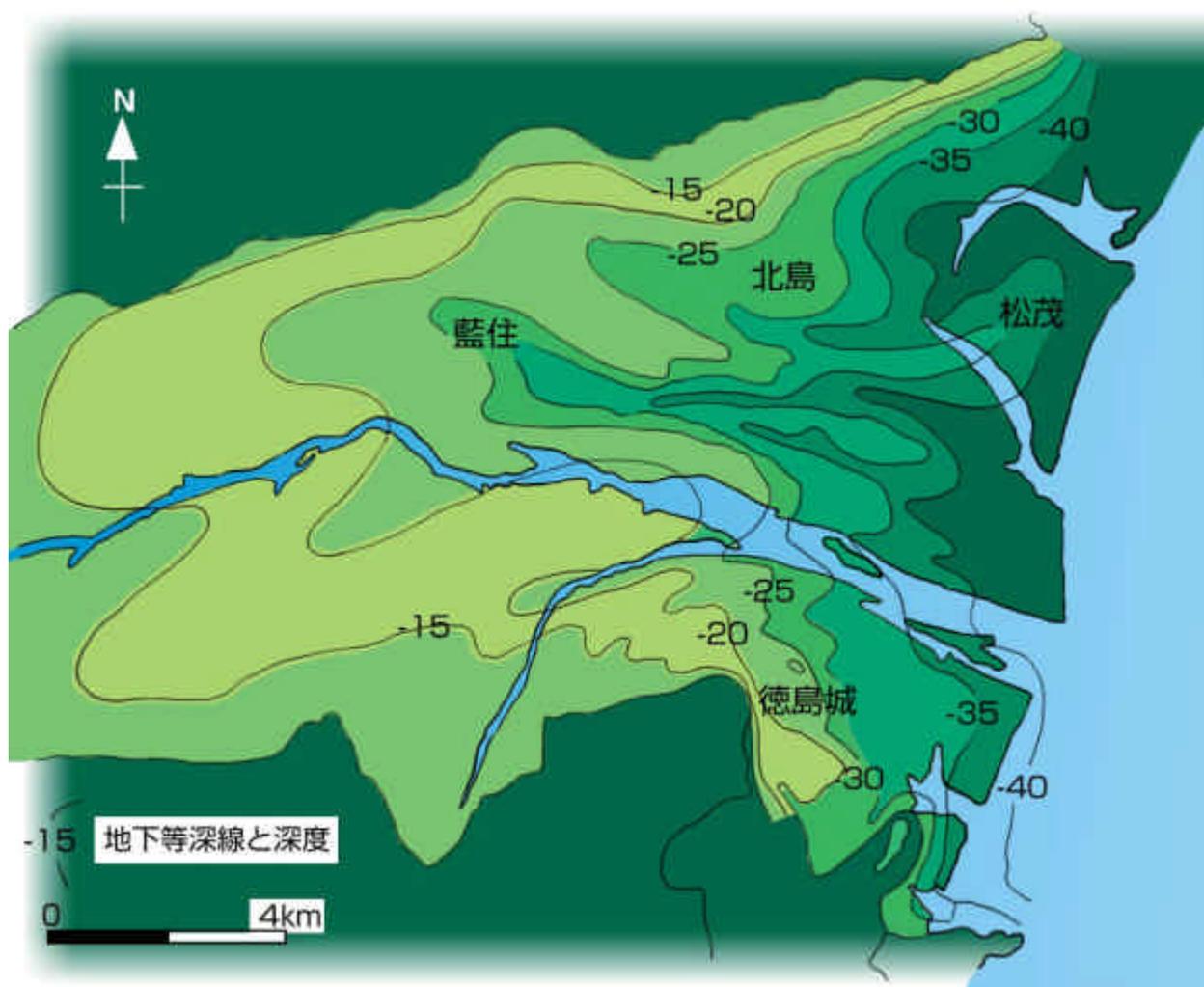


## 1 - 2 川が徳島平野を作った

徳島平野は、川や海の堆積作用によって形成されました。縄文海進と呼ばれる海面の上昇と吉野川が運んできた土砂の堆積によって、徳島平野の現在の形ができたのです。

以降の記述は、「吉野川の自然」、徳島県立博物館及び「自然の歴史シリーズ徳島 自然の歴史」、コロナ社）を基に作成しています。

徳島平野を形成する地層は、川や海の堆積作用によって形成された沖積層です。沖積層の形成には、縄文海進と呼ばれる海面の上昇と、その後の高海面期の継続が深く関わっています。



(「吉野川の自然」、徳島県立博物館) を基に作成

最終氷期当時に渓谷が広がる徳島市周辺

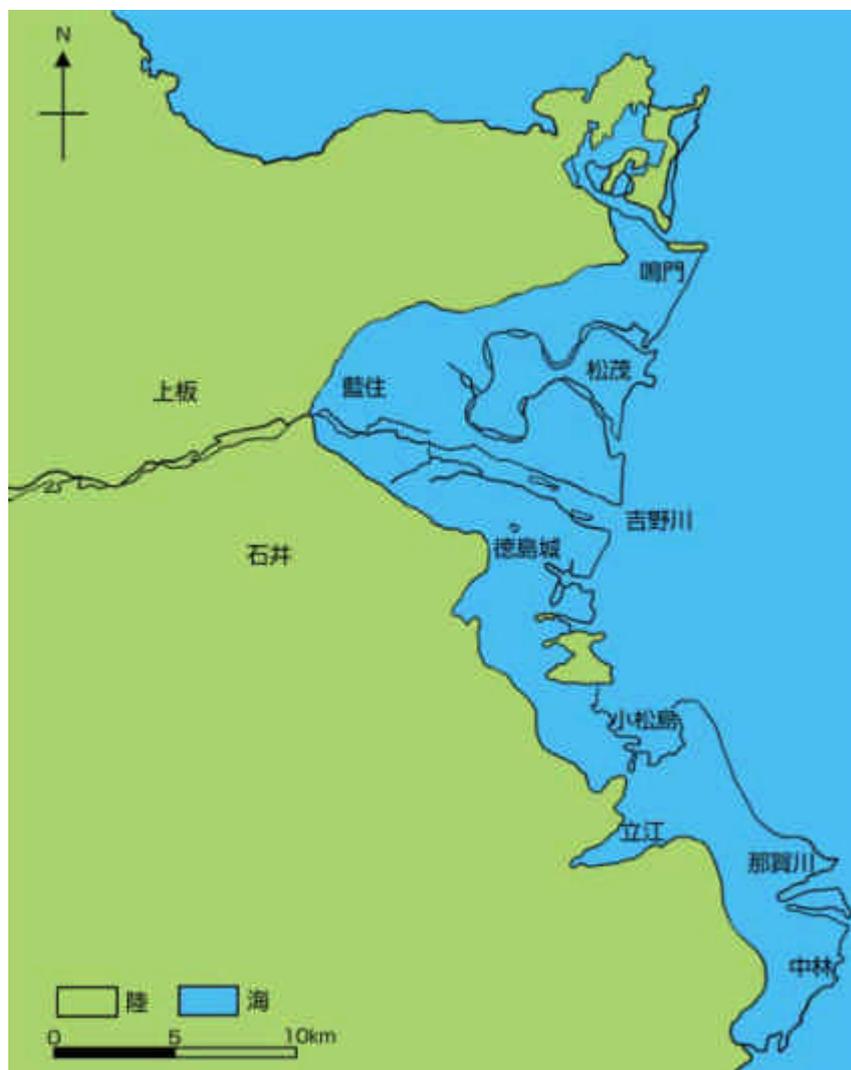
最終氷期のころ、海面は低い位置にありました。そのころ、現在の徳島市周辺には溪谷が広がっていました。

最終氷期も終わりにになると、小規模な寒暖を繰り返しながらも、気候は次第に温暖化し、海水準も上昇し始めました。

後氷期（約1万年前～現在）に入ると、海水準は急激に上昇しました。これが縄文海進です。最終氷期に作られた谷地形の奥へ海水が進入し、内湾ができて拡大していきました。海進のピーク（海頂期）は約6,000年前で、徳島周辺では、海水面が現在よりも約2.5m高い位置まで達したと見積もられています。

その後、海面の高さがおおむね安定していたため、三角州が海側へ向かって成長しました。内湾が埋め立てられ平野ができ、後背湿地が広がっていったと考えられます。

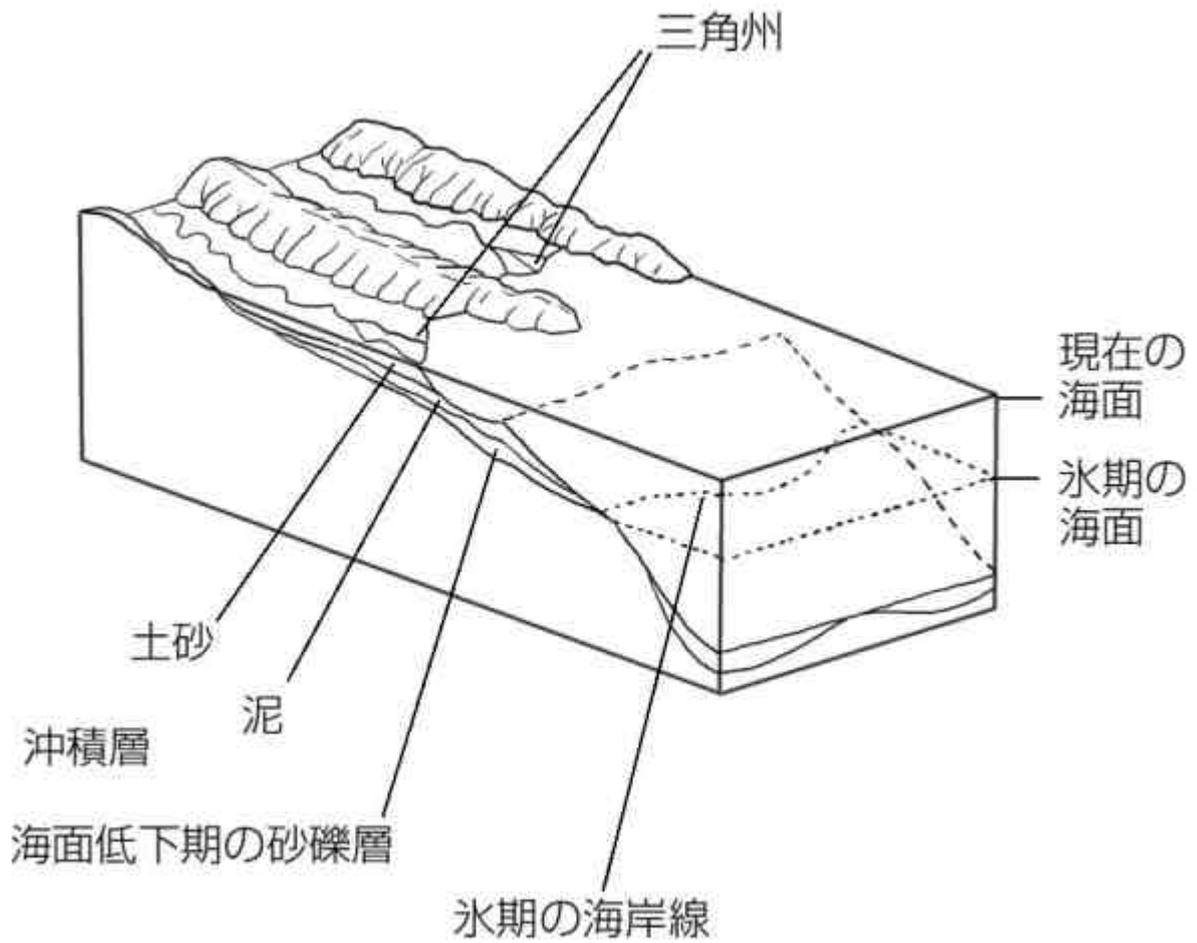
水の循環の一翼をになう吉野川の流れが運んだ土砂が、内湾を埋め立て、徳島平野を作ったのです。



（「吉野川の自然」、徳島県立博物館）を基に作成

### 後氷期に内湾になった徳島市周辺

現在の日本の平野の多くは、地表を流れる川の下に、縄文海進期に堆積した泥、二万年前頃に海面低下期に河川が運んだ砂礫層が見られます。



(「川のなんでも小事典」、講談社)を基に作成

### 日本の沖積平野の構造

国道55号線に沿う地域の地層の断面を見ると、砂層（下図のC）の下にシルト層（下図のB）、その下に砂礫層（下図のD）が堆積しています。



- |            |              |            |           |
|------------|--------------|------------|-----------|
| A : 粘土層    | B : シルト層     | C : 砂層     | D : 砂礫層   |
| E : 粘土質砂礫層 | F : シルト質砂礫層  | G : 砂質シルト層 | H : 礫質粘土層 |
| I : 礫質シルト層 | J : 玉石混じり砂礫層 |            |           |

（「自然の歴史シリーズ徳島自然の歴史」、コロナ社）を基に作成

#### 徳島の沖積平野の構造